



荒 貴賀 議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問

北海道は11月7日付けで新型コロナウイルス感染症の警戒ステージを「3」に移行した。十勝でも11月23日時点で176人が感染、市中感染や家庭内感染が拡大している。

今後インフルエンザと新型コロナウイルスも予想され、医療体制のことも予想され、医療体制のひっ迫、住民からは心配の声が聞かれる。感染者を広げない対策を求めて次の点を伺う。

(1) 新型コロナウイルス感染症健康相談窓口の相談件数と内容は。

(2) 集団感染によるリスクが高い施設の職員、出入り業者へのPCR検査等を行う考えは。

(3) 学校や学童保育所に感染防止のための給湯手洗い設備や加湿器を設置する考えは。

(4) 消毒液によるアレルギーの子どもが出てくる。その対策は。

(5) 北海道が警戒ステージを「2」に移行した際、学校では健康観察など保護者へ協力要請があった。学童保育所および保育施設ではど

問	答
<p>新型コロナウイルスから町民の暮らしを支え 防疫・環境改善の取組を</p> <p>マスクの着用や手指消毒など、引き続き 感染防止対策の徹底を周知していく</p>	<p>のような対応としたのか。</p> <p>(6) 国の生活困窮者への各種支援対策は期限を迎える。制度延長を求める考えは。</p>

の必要性等について検討したい。また、加湿器は必要とする教室等への設置を進めている。

学童保育所における給湯手洗い設備は2か所が未設置となっている。学校と同様に大規模な改修が必要と考えられ現時点では設置する考えはない。加湿器については、保育活動の場所は学習室だけでなく、遊戯室やコミセンの大集会室などの広い空間もあり、設置の必要性について検討したい。

(4) 小学校では医師からアルコールがアレルギー原因物質と診断を受けている児童が1人いる。当該児童はアルコールを使用せず石けんを使用し、流水による手洗いをしている。当該校において校内の消毒を行う際は、次亜塩素酸水を使用して対応している。

(5) 町内の保育所および学童保育所は、6月1日に限定開所から通常開所とした際、保護者に対して、引き続き、登所する場合も手洗いの励行や朝晩の検温など健康観察を確実に行っていただくとともに、

町長(1) 新型コロナウイルス感

染症の町内での患者発生を受け、役場、札内支所、ふれあいセンター福寿の3か所に健康相談窓口を開設した。12月9日までの相談件数は17件で、健康に係る相談が11件、健康以外の相談が6件あった。

(2) 検査の実施は、地域の感染状況を考慮して北海道が判断することになっている。現段階において、町として医療機関、介護施設、福祉施設、保育園・幼稚園、学校など、集団感染によるリスクが高い施設の職員、出入り業者へのPCR検査等の実施は考えていない。

(3) 学校における給湯手洗い設備は、簡易的な手法では使用できる温水量に限りがある。必要量を確保するためにはボイラーの設置が必要であり大規模な改修が生じる。学校施設の長寿命化改修の際に、そ

の必要性等について検討したい。また、加湿器は必要とする教室等への設置を進めている。

学童保育所における給湯手洗い設備は2か所が未設置となっている。学校と同様に大規模な改修が必要と考えられ現時点では設置する考えはない。加湿器については、保育活動の場所は学習室だけでなく、遊戯室やコミセンの大集会室などの広い空間もあり、設置の必要性について検討したい。

(4) 小学校では医師からアルコールがアレルギー原因物質と診断を受けている児童が1人いる。当該児童はアルコールを使用せず石けんを使用し、流水による手洗いをしている。当該校において校内の消毒を行う際は、次亜塩素酸水を使用して対応している。

(5) 町内の保育所および学童保育所は、6月1日に限定開所から通常開所とした際、保護者に対して、引き続き、登所する場合も手洗いの励行や朝晩の検温など健康観察を確実に行っていただくとともに、

発熱等の風邪症状が見られる場合は自宅療養をお願いしている。現在も各保育施設では同様の対応を継続している。

(6) 政府は、感染症の影響が長引いていることを受け、生活困窮者自立支援法の住居確保給付金の支給、生活福祉支援貸付制度における緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付について制度を延長することとした。

再質問 無症状でも感染させるリ

スクが高く、医療従事者や施設職員などの定期的なPCR検査が不可欠と認識している。町としての定期的な検査に対する認識は。

答 一自治体として行うのではなく、広域的な取組が必要である。幕別町だけで行ったとしても留まってくれるわけではない。

